

そんなこと言われるのなら死にたい

— 痴呆早期の妻と過干渉な夫へのパターン介入 —

長谷川明弘
(三島病院)

はじめに

老年期の心理療法

- 他の年齢層のものに比べると、立ちおくれがかなり目立つように感じられる。
- 実証的研究が盛んになる必要があると思う。
- ①問題指向的で、②ある程度指示的で、③短期に終わるブリーフ・セラピー的なものが一般に好まれると考えられる。

(新福, 1997)

目 標

- 本研究は老年期に発症がみられる痴呆患者とその家族に心理療法を適用した事例提示
患者は痴呆が進行するに連れ日常生活での不適応行動が目立つ
例えば着衣の選択や炊事など
- 中等度痴呆の妻とその夫に対する夫婦相互パターンへの介入プロセスを検討すること
- 高齢者の心理療法の特徴ならびに他年齢層対象との差違ならびに共通点を考えること

痴呆の定義

- ①脳の器質的な障害による、
- ②全般的な知的機能の障害に基づき、
- ③日常生活・社会生活の営みに支障をきたした状態

痴呆の症状

中核症状 認知・判断障害、記憶障害
随伴症状 精神症状、神経症状、問題行動・行動異常、ADL障害、性格変化

脳血管性痴呆について

脳血管性痴呆 (vascular dementia ;VD)

- 脳卒中や脳梗塞や脳出血から生ずる血管障害を原因として生ずる痴呆である。
- 痴呆の状態が進行しないで維持したままになることもある。

アルツハイマー型痴呆について

アルツハイマー型痴呆

(Alzheimer-type dementia;ATD)

- 60歳前後の高齢期以降に発症する。
- 進行性の痴呆が主な症状となる。
- 脳の機能障害・萎縮がみられる。
- 原因不明である。

事例の概要

- 70歳の女性は物忘れが多くなったと夫(72歳)に連れられM病院精神科外来を受診した。
- 主治医は脳の画像診断や心理検査など諸検査の結果、妻を「アルツハイマー型老年痴呆兼多発性脳梗塞」と診断した。
- また主治医は夫の妻への過保護さ、過干渉な点に注目し、セラピストに心理療法導入という形で紹介してきた。

心理検査結果—初回面接前 199x/5/13

• 簡易知能評価スケール

MMSE	HDS	HDS-R
15/30	18.5/32.5	18/30

• MMS言語記憶検査

有意味/1/2/2/3/2 合計10-重度記憶障害
無意味/1/2/1/2/1 合計7-軽度記憶障害

• コース立方体

コースIQ:67.2 MA:10歳9ヶ月

※軽度痴呆 記憶力は低下している。
知能は保たれている。

いいことと思っ
ておられるけれど
本心からいってば
っかりする
わたしのことを思
うそれだけ
かんがっています

心理検査結果—初回面接前
自由記述

#1 199x年5月20日(火)10:30-11:35 1/2

• 合同面接

i) 夫は妻の行動についてまくしたてながら話した。夫が話すのを聞いていた妻は「そうだね」とうなづいていた。しかし夫の話の内容によって妻は時折涙ぐむ場面があった。

夫「注意しているが、なかなかきかない。」
妻「そんなこといわれるのなら、死にたい。」

#1 199x年5月20日(火)10:30-11:35 2/2

• 話題になったこと—#1

- 煮物の中の野菜の量が多いこと
- 妻が衣類を知人に渡すこと
- 人前だと妻の言葉がぞんざいになること

• 課題—#1

夫)口出しをしない日を1、2回作ってもらうこと
妻)これまで通りでいること

• 個別面接

なし

セラピストの見立て

• 治療目標

- ①夫婦の交流パターンが変化すること
夫→妻 ⇒ 夫←→妻 の増加
- ②夫は「言葉」だけでなく「行動」を伴って妻の援助ができること
- ③夫は妻を「叱る」頻度が減ること
- ④妻は「死にたい」という頻度が減ること

#2 199x年6月3日(火)10:30-11:35 1/2

- 合同面接
 - i) 夫は今回もまくしたてながら話しをした。

前回提示した課題について夫はできなかったと
夫「先生のおっしゃったようにじっと見ている、だが、(見ていると)後で注意する。」

- 話題になったこと-#2
 - I. 妻が季節にあった服を選べないこと
 - II. 妻が煮物や牛乳に砂糖を多く入れること
- 課題-#2
 - 夫) 口出しをしない日を1、2回作ってもらおうこと-#1
 - 妻) ①これまで通りでいること-#1
 - ②アメや煮物に入れる砂糖を減らすこと

#2 199x年6月3日(火)10:30-11:35 2/2

- 個別面接
 - 夫) 妻の行動をコントロールすることを次々と話した。
 - セラピスト「あなたが自分に課す課題で、それが奥さんのためになることを教えて欲しい。」
 - 「家では乾麺がたくさん余っており、週に1日でも良いからそれをつくれと妻に言っても返事をするが作らない。」
 - 妻) 夫が煮物の野菜が多いと言っていることを話した。
 - 「キャベツは減らしても味が変わらない。」
- 個別課題-#2
 - 夫) 妻のために料理を作ること
 - その際どんな料理でも良いが1回以上してもらおう。
 - 妻) 煮物を作るときに、キャベツを減らすこと
 - 個別面接後に個別課題をお互いに秘密にすることを約束した。

#3 199x年6月17日(火)10:30-11:45 1/2

- 合同面接
 - i) 夫はなかなか提示された課題ができなかったという話しを続けた。
 - 夫「難しかった。先生のおっしゃったようにじっと1日見ている、後で注意する。」
 - ii) 夫は妻の忘れたとか間違えたと思われる行動を「知っていて聞いています」ようにしていると話した。
- 話題になったこと-#3
 - I. 妻が季節にあった服を選べないこと
- 課題-#3
 - 夫) ①これまで合同面接で提示した課題をしないこと
 - ②今まですべて否定していた妻の行動に対して一部を修正した言葉かけをしてもらうこと
 - 妻) これまで通りでいること-#1~2

#3 199x年6月17日(火)10:30-11:45 2/2

- 個別面接
 - 夫) 乾麺を妻が作るのを手伝った。土曜日に設定した。妻はもったいないという気持ちが私よりも大きいから乾麺を作ることに上手くのってきた。
 - 妻) 夫が「ちょっと(野菜は)ないな～」といった。
- 個別課題-#3
 - 夫) 妻のために料理を作ること
 - その際どんな料理でも良いが1回以上してもらおうこと-#2
 - 妻) 煮物を作るときに、キャベツを減らすこと-#2

#4 199x年7月1日(火)10:30-11:45 1/2

- 合同面接
 - i) 夫は個別課題について報告をした。
 - 夫「もったいないというのを承知しているけど、督促しないとそうめんにしらない。」
 - 妻「そうめんは食べない。あまり食べたくない。」
 - ii) 夫は「野菜が最近減ってきたようだ」といった。
- 話題になったこと-#4
 - I. 前回の課題は実行できなかったこと
 - II. 煮物の中の野菜の量が多いこと-#1
- 課題-#4
 - 夫) 妻を注意するときは、いきなり怒らないこと 「つなぎのことがばけ」
 - 妻) ①煮物の野菜を減らすこと
 - 例えばジャガイモをいつも3個使っているなら2個にすること
 - ②これまで通りでいること-#1~3

#4 199x年7月1日(火)10:30-11:45 2/2

- 個別面接
 - 夫) 合同面接時に個別課題について話したことを指摘
 - 「そうめん」を食べるように「リードする」やりとり
 - 妻) 「キャベツを4分の1にしている。」
 - セラピスト「夫にはどうなってもらいたい」
 - 「もっと優しくしゃべって欲しい」
- 個別課題-#4
 - 夫) 「そうめん」をつくるように「リード」すること
 - 妻) 煮物を作るときに、キャベツを減らすこと-#2, 3

#5 199x年7月15日(火)10:05-11:15 1/2

- 合同面接

i) 主治医との診察で「煮物」の量を減らすことが話題になった。夫は「いつも言っているがなかなか直らない」ということを面接中に強調した。

ii) 布団を敷くときに夫が見本を見せたら妻は「そう」といって夫の言うとおりにした。
やりとりを念入りにセラピストは聞いた。

iii) 夫は今回も個別課題について報告をした。
夫「この一週間は(妻は)自分で『ご飯が今日少ないからそうめんにしよう』と言ってくる。」

iv) 妻「お父さんの言い方が(前より)やさしくなっ

#5 199x年7月15日(火)10:05-11:15 2/2

- 話題になったこと-#5

I. 煮物の中の野菜の量が多いこと

- 課題-#5

夫)妻がつくった煮物を夫は別の所に移すこと
妻)これまで通りでいること-#1~4

- 個別面接

なし

#6 199x年7月31日(木)10:00-11:20 1/2

- 合同面接

i) 煮物を作る頻度が少なくなったため夫は片付ける課題を実行できなかったと
そのかわり家庭の畑でトマトを多く採ってくる。
畑までは夫が車で連れていく。

ii) 布団を敷くことが妻、布団を片付けることが夫という役割分担があったが、妻は自分の他の仕事を片付けた後に『じいちゃん手伝ってあげる』といってくるのが2、3回あった。
これまでこの様に手伝うことはなかったと

#6 199x年7月31日(木)10:00-11:20 2/2

- 話題になったこと-#6

I. 人前だと妻の言葉がぞんざいになること-#1
これは「病気」からきていると夫は考えている。
「人前」→「兄弟や身内の人」ではぞんざいになる
↓
「町や職場の人」ではあまりぞんざいでない。

- 課題-#6

夫)妻の言い方が変わるのはどうしてなのかを観察して考えてくること「身内、兄弟」「町の人、職場の人」
妻)これまで通りでいること-#1~5

- 個別面接

なし

#7 199x年8月12日(火)10:15-11:30 1/2

- 合同面接

i) 「気使いの方(気を使う必要のある人)が来られると(ぞんざいになるのが)少ないようだなあ。それをよく考えてみると私の言い方に問題があることに気づきました」
妻「じいちゃんは兄弟の前だと『怒り声』になる。」
セラピスト「ならばこれからどのようにしたらいいのでしょうか？」
夫「兄弟の前や近い人の前では、ばあちゃんのことをあまり言わない方がいいかなあ(するとどうなると思いますか?)あまりぞんざいにならなくなるのでは..」

#7 199x年8月12日(火)10:15-11:30 2/2

- 話題になったこと-#7

I. 妻の言葉がぞんざいになるのは夫の言い方がきっかけになっているかもしれないこと

- 課題-#7

夫)親戚の前でこれまでと違って夫は妻にやさしく話しかけること
妻)これまで通りでいること-#1~6

- 個別面接

なし

#8 199x年8月27日(水)10:15-12:00 1/2

- 合同面接

i) 妻が衣類を知人に渡すのは病気のせいなのでは
妻「そんな古着を人にくれるなど(夫から)怒られる。」
妻「あまり服を買ってもらったことがない。」

ii) セラピストは前回の課題の報告を求めた。
夫「違いがあることはわかった。」

iii) セラピストは煮物の量についての報告を求めた。
夫「あまり注意していない。」
妻「(ニコニコしながら笑顔で)あまり怒られない。」
セラピストは「煮物の量」のことを妻の個別課題と

#8 199x年8月27日(水)10:15-12:00 2/2

- 話題になったこと-#8

I. 妻が衣類を知人に渡すこと-#1
II. 妻が煮物や牛乳に砂糖を多く入れること-#2

- 課題-#8

夫) ①親戚の前でこれまでと違って夫は妻にやさしく話しかけること
②妻の様子をよく観察すること
妻) これまで通りでいること-#1~7

- 個別面接

なし

#9 199x年9月9日(火)9:45-11:00 1/2

- 合同面接

合同面接を始めると夫は体の不調を訴えた。妻から個別面接をすることにした。夫も診察を受けてから個別面接をすることにした。

- 個別面接

妻: 前回の面接後「あんなこというな」と夫からげんこつで叩かれた。
妻「服を買ってもらったことがない。」
セラピスト「もし夫に服を買ってもらったとしたら、その服を着ます。」
妻「着ます。」
夫: 「(妻に) 変なところはなかったか」と話し始めた。
妻が衣類を知人に渡してしまうことが度々あるという。
セラピストは夫婦で服を購入に行き夫が選ぶということを思いついた。

#9 199x年9月9日(火)9:45-11:00 2/2

- 話題になったこと-#9

I. 妻が衣類を知人に渡すこと-#1, 8

- 個別課題-#9

妻) 特に設定せず
夫) 小さなことでかまわないので妻をほめること

- 課題-#9

夫・妻) 夫婦で妻の服を買いにいこう

妻が物を渡す時の行動連鎖

- ① 知人が妻のもっているもの(衣類、アクセサリー)をほめる。
- ② 妻は「ほめられたもの」を差し上げるという。
- ③ もらった人は、(仕方なく)受け取る。
- ④ 夫が妻の行為を「病気」のためとし、妻を厳しく叱る。
- ⑤ 妻は「良いものと言われたから」と夫に説明をする。
- ⑥ 夫はそれは「おせじ」だと話す。
- ⑦ 妻は夫に「怒られてばかりで死にたい」と言う。

セラピストの仮説

- ① 夫が服を購入した場合、その服は妻は他者に譲らない。また夫は、妻に服のことを季節外れだとか言うことを減らすであろう。
- ② 夫が妻をほめることを増やすと、妻は他者に何かものを渡す頻度が減少するであろう。

#10 199x年10月14日(火)9:55-11:40 1/2

- 合同面接
 - i) 夫は前回の課題である「ほめること」を実行し、その記録を見ながら報告した。
夫が「料理がおいしかった」と言ったら妻は「これまで初めて誉められた」と
夫のメモには
「最近、料理に何と何を入れようか？途中で味はどうだろう味を見てと聞くようになった。」
※料理はお前が考えてすればよいだろうと言うと文句を言うと嫌だから！！
 - ii) セラピスト「どんな服をじいちゃんに買ってもらったの？」
妻「いいや、買ってもらっていない。私の財布からお金を出した。」
夫婦で服と一緒に買いに行き、夫婦で服を選んだ。妻は代金を自分で出すと支払いをした。家で夫は代金だと妻にお金を渡した。

#10 199x年10月14日(火)9:55-11:40 2/2

- 話題になったこと-#10
 - I. 夫が誉めたときの妻の反応
- 課題-#10
 - 夫・妻) 妻は調理しているときや衣類を選ぶときに夫に聞く。夫はそれに応える。
- 個別面接
 - 夫: 「どうにかしてこの状態を治して……」
「自分の『常識』を押しつけすぎていた。」
 - 妻: 夫に文句を言われた場合「殺してくれ、そして若いしやんとしたひとを嫁にもらって」と言うと話した。
セラピストは「その様な若い人があのじいちゃんに見つかると思いませんか？」と妻に聞いた。妻は苦笑いをした。
- 個別課題-#10
 - 夫) 妻の「常識」に沿うこと
妻) 特に設定せず

#11 199x年10月30日(木)10:05-11:45 1/2

- 合同面接
 - i) 夫は繰り返し繰り返し言うのみでなかなか妻の「常識」はわからなかったと
 - ii) 妻が煮物を作るときに味見をしてと聞いてくるようになったこと
 - iii) 妻が衣類を決めるとき夫に確認をするようになったこと
 - iv) 夫が妻に忘れていることを指摘すると「今やろうとしていた」ということ

#11 199x年10月30日(木)10:05-11:45 2/2

- 話題になったこと-#11
 - I. 妻が「今やろうとしていた」ということ
- 課題-#11
 - 夫) 夫は妻の「置き忘れ」をこっそり元に戻すこと
妻) これまで通りでいること-#1~8
- 個別面接
 - なし

妻の物忘れのときの夫婦の行動連鎖

- ① 妻は置き忘れ(物忘れ)をする。
- ② 夫は妻が置き忘れ(物忘れ)をしたことに気づく。
- ③ 夫は妻になんとか思い出させようとする。
(時には妻が気づくまで知っていて黙っている)
- ④ 妻は全く思い出せない。あるいは全く気がつかない。
- ⑤ 結局夫は妻を注意する。
- ⑥ 妻は夫にまた「怒られた」と思う。
- ⑦ 妻は記憶がないので「こんなバカな頭になって」と自らの頭を叩く。
- ⑧ 妻は「死にたい」と言ったり、思ったりする。
- ⑨ 夫は妻のためを思って言っているのだと強調する。

#12 199x年11月11日(火)10:05-11:55 1/2

- 合同面接
 - i) 夫は妻が置き忘れた食器や鍋をこっそりと片付けたと報告した。
夫「(妻は) 鍋を(使って)出しては積んでおく。そこで出ているナベを上棚に片付けた。(すると奥さんは?) 鍋のことを何も言わなかった。」
報告では夫が一方向的に鍋を片付けたようであった。
 - ii) セラピストは妻に今ある鍋の数と妻が必要と考えている数を聞いた。
夫はフライパンもたくさん出ているというのでその数も聞いた。

	現時点の数	妻が必要な数	
小ナベ:	5	3	牛乳を湯かす
中ナベ:	5	5	銅製のナベを含む
大ナベ:	5	1	野菜の煮物を作る
大フライパン:	2	0	
中フライパン:	2	2	肉を焼く
小フライパン:	1	1	卵焼き用を含む

#12 199x年11月11日(火)10:05-11:55 2/2

iii)「もし、怒ることがなくなると代わりに何かすることは？生活がどのように変わりますか？」— 治療目標の再確認

夫「このようなことが無くなるとは考えられない。結局一緒に住んでいると何か言う。」

妻「(ならばじいちゃんにはどうなって欲しいですか?)もっと優しく言って欲しい。(どんな風に?)『(素早く強く怒るように)こうなんだて』じゃなく『(口調が柔らかく)こうなんだて』・・・」

- 話題になったこと— #12
- I. 鍋とフライパンが台所にたくさんあること
- 課題— #12

夫・妻) 必要ないと妻が言ったナベを一緒に話し合って片付けること

- 個別面接 なし

#13 199x年11月25日(火)10:13-11:45 1/1

合同面接

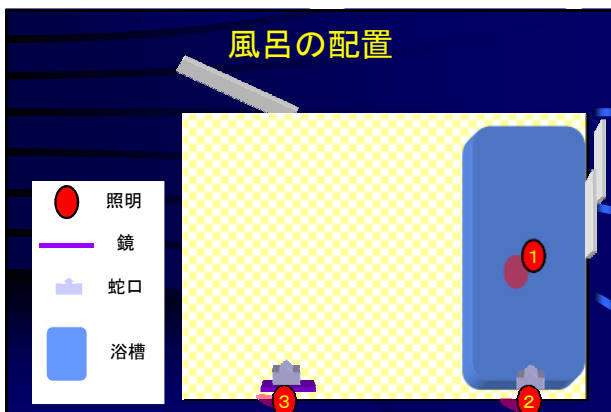
i) 鍋などの数は減っているという報告であるが話し合いをせずに夫は鍋を片付けたと
数を減らしてから、夫はこれについて思うことは減ったという。

ii) 妻が置き忘れたもの— 鞆などを夫はこっそり元に戻しているという。

- 話題になったこと— #13
- I. 妻が風呂にはいるときに電気をつけないこと
- 課題— #13

夫・妻) 風呂場の照明について夫婦で話し合うこと

- 個別面接 なし



#14 199x年12月9日(火)10:10-11:25 1/2

- 合同面接

i) 大きな鍋を一度夫が片付けたが妻が再度引っぱり出してきたと昨日鍋のことを話し合ったと

ナベ・フライパンの数					
鍋	大	中	小	フライパン	大
(現況)	5	3	3	(現況)	1
					1
					2

ii) 夫は風呂場の照明の数を2つ減らして1つにしたと
妻は照明をつけて風呂に入るようになっていると
妻「これまで明るかったけど、じいちゃんが電気をはずして少し暗くなったから・・・」
照明を1つにしたことで「髭を剃るのが少しやりにくい」と夫はいう。
妻「もう少し明るくしたら」

#14 199x年12月9日(火)10:10-11:25 2/2

iii) これまでの課題や面接を通して変わったことを夫を中心に確認し合った。

- ① いろいろと妻は夫に聞くようになった。
- ② 夫婦で服を買いに一緒に行くようになった。
- ③ 妻が忘れたカバンを夫も探すようになった。
- ④ 最近夫婦でよく出かけるようになった。
- ⑤ 妻は「死にたい」ということが減った。

- 話題になったこと— #14
- I. 照明を1つにしたので夫は髭が剃りにくくなったこと
- II. 面接を通して変わったこと
- 課題— #14

夫・妻) 風呂の照明をもう少し明るくするのを話し合って決めること
夫・妻) もう少し話し合いたい内容を探してくること

- 個別面接 なし

#15 199x年12月25日(木)10:00-11:05 1/2

- 合同面接

i) 夫「鍋を片付けたのにまた(妻は)出してきた。」
今回は妻にフライパンと鍋の数を聞いた。

妻の認識している鍋・フライパン数					
鍋	大	中	小	合計	フライパン
妻	6	2	4	12	1 / 3 4
前回(夫)	5	3	3	11	1 1 2 4

妻に鍋を出した理由を聞くと妻は煮物を娘が喜んでもらっていくことを話した。彼女はいろいろと鍋の大きさを変えて煮物を作っているという。

ii) 夫は風呂の照明の数を増やさずに電気のワット数を上げた。
夫は照明のことを家で妻に聞いた。
妻「これなら明るすぎないのよ良い」
夫「髭を剃るのに困らない程度だ」
夫は妻が照明をつけて入浴していると喜んでた。

2/2

#15 199x年12月25日(木)10:00-11:05

- 話題になったこと-#15

夫はこれまで変わったことを振り返ってきた。彼は書いてきたメモをみながら一緒に話し合った。

変わったこと

 - ①物事を聞くようになったこと
 - ②風呂の照明のこと

変わらないこと

 - ①物忘れが一年前よりもひどくなったこと
 - ②人にいろいろとものを渡してしまうこと
- 課題-#15

夫・妻)もう少し話し合いたい内容を探してくること-#14

 - 個別面接

なし

1/1

#16 199x+1年1月8日(木)9:45-10:55

- 合同面接
 - i)前回と同じ様な報告
 - ii)さらに他人に衣類などをあげることが話題になった。

夫「ものをあげる癖ですが、身内の人にあげるのに限定されている。これは妻の『思いやりの精神』からきているということがわかりました。」
- 話題になったこと-#16

I. 終結に向けてこれまでの変化を話し合った
- 課題-#16

夫・妻)次までに何か変わったことや疑問に思うことがあるかどうか考えておくこと-#14~15

 - 個別面接

なし

1/3

#17 199x+1年2月17日(火)10:00-11:15

- 合同面接
 - i)煮物の味付けを妻が夫に聞いてくること

妻「『(砂糖が)多い』と(夫に)いわれると自分で味付けしてという。」

夫「『じいちゃん上手だから・・・』というので、おだてたってダメだよ。」
 - ii)「これまでと変わったことを教えて下さい」

妻「あんまり怒り声を出さなくなった。(すると)いい気分になった。(何が違うの?)今までおっかなかったけど(夫の)面倒をみようかな・・・」

2/3

#17 199x+1年2月17日(火)10:00-11:15

- iii)夫のメモに基づいて話を進めた。(Yは妻、Hは夫)

三島病院に通院以来変わった点

 - 1.服装、お出かけ時等には必ずHに相談するようになった
 - 2.料理、煮物の味を見てくれと相談する
 - 3.浴室の照明を点灯するようになった
 - 4.外出したがるようになった
 - 5.おじぎが丁寧になった。必要以上に丁寧すぎる(異常)

※これは三島病院通院以前からか?
 - 6.Hの健康に意外と気を使う

※Yにお前はあと10年はなんとしてもシッカリしないとダメだよとことごとく説得しているためか

Hが病気になったらどうする等々・・・
 - 7.姉妹に古着をあげるのが最近(新年に入ってから)直ったようだ(あきらめたか)

3/3

#17 199x+1年2月17日(火)10:00-11:15

前回までのセッション記録を渡した。妻は「ありがとう。」といい夫は「早速読ませてもらいます」と話した。セラピストは「家で一緒にみてお二人がどのように変わってきたのかが書いてあります。もしどこか気分を書かれるところがあったらごめん下さい。そういうつもりでかいてはいいのですが・・・」

- 話題になったこと-#17

I. 終結に向けてこれまでの変化を話し合った
- 課題-#17

夫・妻)今の状態を続けること

199x+1/3/3

心理検査結果-終結後

- 簡易知能評価スケール

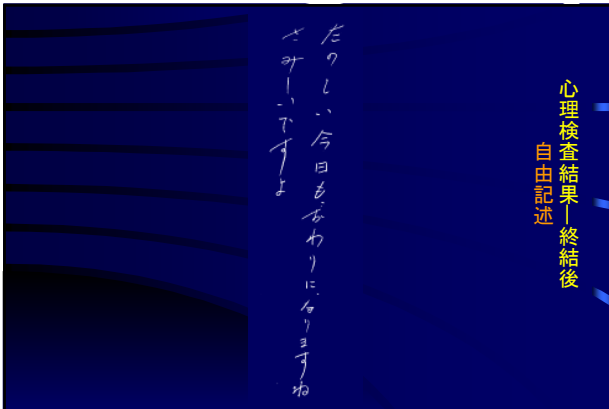
MMSE	HDS	HDS-R
17/30	19.5/32.5	18/30
- MMS言語記憶検査

有意味/1/3/3/2/3 合計12-重度記憶障害

無意味/1/0/1/0/2 合計4-重度記憶障害
- コース立方体

コースIQ:67.2 MA:10歳9ヶ月

※軽度から中等度 前回と変わらず。



考察—セラピストは何をアツカッタのか

- 区別ができること
夫は妻の行動面で区別ができるようになること
妻の能力低下(夫が受け入れ困難)部分
妻の能力維持(夫が受け入れ可能)部分

課題

「人前で妻の言葉がぞんざいになること」
「煮物の量」
「妻を誉めること」

考察—セラピストは何をアツカッタのか

- 交流が増すこと

セラピストは4段階に分けて夫から妻への働きかけ方の変化を促した。

第1期(#1~#8)
妻のために何かをするというかわりを始める。「そうめん」

第2期(#9~#10)
相手にあったものを選んで確認する。「妻の服を一緒に買いに行くこと」
夫は妻の様子を観察する。
妻から夫に話しかけることのきっかけができる。
「夫が妻を誉めること」

第3期(#11~#14)
夫婦でやりとりを促す。「風呂の照明」「鍋、フライパンの数」

第4期(#15~#17)
妻から夫に確認する頻度が増し、夫は妻を注意しにくくなる。
「煮物の砂糖の量」「衣類を決めること」

考察—セラピストは何をアツカッタのか

- これまで通りでいること
- 妻へは「これまで通りでいること」と合同面接で課題提示
妻を保護することを意図
- 個人面接の狙い
- 2人で暮らしている夫婦にとって貴重な体験
- 夫婦を対等にみなすことが可能
課題を秘密にする
唯一の人であるというメッセージ
- 妻からの情報が得られること

考察—高齢者への心理療法の特徴

- 現在に焦点づけした上での問題志向
- 課題提示を通じて指示を伴った面接
- 日常生活で能力低下している部分と能力維持している部分の両方に焦点を当てること
- どのように日々を快適に過ごせるかを念頭に入れて関わること
- 家族の協力を得るのが望ましいこと
個別面接と合同面接を組み合わせ

おわりに

- 本研究のような既存の理論に合致させない形式での実践報告は益々重要性を増してくる。
- 事例数を増やして検討を進めていきたい。